

會 告

(I) 来る昭和四年十月本邦東京に開催の萬國工業會議の委員會に於て主催側各學、協會々員（萬國工業會議員外）の便宜を圖り、同會議部會に出席聽講差問なき旨決議され候得共會場の收容者數に限りあれば整理の都合上傍聽券發行する事と相成候處該券は本會へ幾枚割布相成るや未定に候へ共御希望の方は其旨本協會事務所へ豫め御申越置相成候はゞ受付順を以て呈送可仕候也

II) 別紙第一の如く 明年白耳義に於て開催せらるべき萬國工業博覽會を機とし鐵鋼構造に關する萬國會議の件に付き 工學會理事長古市男爵より 勧誘狀到着仕候に付き會員諸君の奮て同會へ出席又は論文を提出せられ度く及會告候也

尙ほ白耳義工業聯合會長より古市男爵宛の書翰別紙二の如し

「別紙第一」(本會々長宛)

工學會理事長工學博士 男爵 古市 公 威

拜啓貴會益々御隆昌慶賀の至に存候 然ば明 1930 年白耳義リエージュに催さるべき萬國工業博覽會を機とし同國々王アルベール陛下を總裁とし鐵鋼構造に關する萬國會議を開催する事に決定せる趣にて此度該會議參加に關し添附別紙の通り本會宛勧誘に接し申候

以上會議は本邦に於ける鐵鋼構造に關する研究施設を世界に紹介する絶好の機會と有ぜられ候に付き貴會々員に於ても奮て該會議に論文を提出せらるゝと共に及ぶ限り親しく會議に出席せられ候様御取計を賜度希望の至に不堪候

以上御通知旁御依頼迄得貴意度如此御座候 拜具

追て貴會々員より提出せらるべき論文題目並に會議へ御出席會員の氏名は 10 月 15 日迄に本會宛御通報被下度候

「別紙第二」

リエージュ 1929 年

白耳義工業聯合會 總 長 エル・グルニエー
同 書記長 オー・ベルソヌ

日本 工學會々長 古市公威殿

拜啓 1930 年白耳義國政府後援の下にリエージュに催さるゝ萬國工業博覽會を機とし鐵鋼構造に關する萬國會議開催の事に決定添附書類之通り該會議の行事組織等取極め申候に付一應御覽之上貴國に於ても國內委員會を組織して本會議に参加せらるゝ様御取計を賜はらん事を懇請仕候

實は本會は貴會が貴國に於ける學會及工業團體を赴合せらるゝに最も適當なる團體なるを確信して斯く御依頼申上候次第に付何卒本會の微衷の存ざる處を諒せられ本件に關し充分御協力を賜はらん事を祈り申候 敬具

附記 添附次第書中本會に最も關する 部分次の如し (添附の 次第書は本會に有之候に付御希望の方へは御申越次第送呈可仕候)

1. 鋼の性質
2. 標準型
3. 鋸接及鍛熔接
4. 防錆法

昭和 4 年 9 月

社團法人 日本鐵鋼協會

會 告

會費領收廣告

准 會 員

金參圓六拾錢也

(自昭和四年七月至同年十二月)

野黑桑	本崎田	德源賢	市一三	野久保	中田瀨	義政	詔一彌	乃國黑	木本瀨	精周種	一吉吉	野葛日	口誠四	博四郎	栗久慈	田久慈	滿四郎	義四郎	熊久保	谷保田	光富	雄豐
山內村	山村下	山英	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山真	山前	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山前	山前	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山深	山深	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山福	山福	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山近	山近	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山小	山小	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山古	山古	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山遠	山遠	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山手	山手	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山安	山安	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山朝	山朝	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山酒	山酒	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山佐	山佐	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山喜	山喜	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山清	山清	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山三	山三	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山南	山南	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山下	山下	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山重	山重	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山清	山清	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山茂	山茂	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山望	山望	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山鈴	山鈴	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山杉	山杉	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山曾	山曾	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山林	山林	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山橫	山橫	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山毛	山毛	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山濱	山濱	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山田	山田	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治
山中	山中	山武	三郎夫	山八山	山本名	山尚正	山義已	山柳山	山瀨崎	山綱	山武信	山田山	山藤正	山基榮	八木野	八木野	原長	正三郎	山口山	田本	富士	夫治

金拾四圓四拾錢也

(自昭和三年一月至同四年十二月)

金拾圓八拾錢也

(自昭和三年七月至同四年十二月)

竹內元清

國本兼夫有馬久

金九圓也

(自昭和四年一月至同五年三月)

金七圓貳拾錢也

(自昭和四年一月至同年十二月)

今井修

富永貫一長光二高良淳

野澤一

葛目義武佐藤恒義瀨金次郎

金六圓六拾錢也

(自昭和四年二月至同年十二月)

金六圓也

(自昭和四年三月至四年十二月)

小野澤浩

中村勇海野國壽山下常八

山田三郎
高田智
高宮智
下村繁
富澤永
井良寬

田宮智
村繁良
永井寬

彦壽勝
三良寬

本武
大谷豐

雄三
吉

金五圓八拾錢也 (自昭和四年五月至同年十二月會費及入會金)

鈴木 四郎 石井 藁 南波 榮吉 坂井 免市

金五圓四拾錢也 (自昭和四年四月至同年十二月)

道下 靜雄 川口 壯吉 柳下 吉太郎 久保田 金五

金五圓也(不₄₀發) (自昭和四年四月至同年十二月) 山田 兵衛 柳川 猛二

金四圓八拾錢也 (自昭和四年五月至同年十二月) 太田 信重 川島 浪夫

加藤 輝 金本 恭三 天利 義昌 三澤 義次 茂又 弘貞 井上 正次

金四圓六拾錢也 (自昭和四年七月至同年十二月會費及入會金) 林 吉之助

針池 力松 星長 清一 德尾野 達夫 川井 清水 高井 秀雄 竹田 竹次郎
村岡 元市 梅澤 光三郎 北河 水雄 木島 忱 三ヶ島 秀雄 縁川 五六

金四圓貳拾錢也 (大昭和四年六月至同年十二月)

大和 林八 小藪 重行 末松 一雄

金四圓也 (自昭和四年八月至同年十二月會費及入會金)

穗阪 德四郎 萩原 三平

金參圓也 (自昭和四年八月至同年十二月) 大場 鶴雄

金參圓六拾錢也 (自昭和四年一月至同年六月) 大西 信三郎 澤田 政勝

金六圓也 (自大正十四年四月至大正十五年一月) 高宮 一士

金參圓六拾錢也 (自昭和四年六月至昭和四年十一月) 朽原 保生

金拾圓也 (自昭和二年十月至昭和三年二月) 丸山 芳夫

金四圓也 (自昭和四年七月至同年十二月) 遠藤 勝次郎

金五圓也 (自大正十五年一月至同年九月) 佐藤 慶次郎

金參圓六拾錢也 (自昭和三年七月至同年十二月) 守屋 重義

金四圓六拾錢也 (自昭和四年六月至同年十二月會費及入會金) 山口 正

金五圓貳拾錢也 (自昭和四年六月至同年十二月會費及入會金) 小山 信雄

金七圓貳拾錢也 (自昭和四年七月至同五年六月) 中野 正義 杉浦 稠三

正會員

金四圓五拾錢也 (自昭和四年七月至同年十二月)

池上 龍夫 池田 英雄 池田 孟 飯島 健 居城 又男 井上 敏之助
盧 成章 二階堂 行健 友田 一太 大屋 敦 大阪商事株式會社大阪支店金物部
越智 誠二 渡邊 行太郎 渡邊 義介 金原 信泰 川那邊 甚藏 川畑 仁太郎
加藤 修 加茂 正雄 川崎造船所製鋸工場 漢治洋工司工務所 川口 正名 ヨハンドリーゼン
田子島 茂次 竹田 鍊二 瀧澤 七郎 高松 誠 塚本 卯三郎 永留 小太郎
向 達 村上 義通 內山 九萬 久保 喜內 眞野 官一 深見 俊三郎
五島 俊吉 朝倉 乘之助 芦原 光太郎 荒川 直三 相原 鐵次郎 佐藤 稻夫
齋藤 正平 木村 秀教 三浦 三索 樋口 喜六 鈴木 益廣

金拾參圓五拾錢也 (昭和三年七月至同四年十二月) 佐久間 友二

金九圓也 (昭和四年一月至同年十二月)

坪内 義之 中島 喜代治 箕田 亥三郎

金八圓也 (昭和四年五月至同年十二月會費及入會金) 野村 梶太郎

金六圓五拾錢也 (昭和四年八月至同五年一月會費及入會金) 中島 統一

金四圓五拾錢也 (昭和四年一月至同年六月) 村田 素一郎

金五圓貳拾五錢也 (昭和四年六月至同年十二月) 泰 源 次